

【次期瀬戸市将来計画】 瀬戸市基本構想審議会での検討状況について（令和7年12月末現在）

○瀬戸市基本構想審議会について



	所属等	氏名	分野等
1	南山大学総合政策学部 教授	石川 良文	都市環境政策、地域経済、政策評価
2	株式会社官民連携事業研究所	鷲見 英利	官民連携
3	瀬戸市障害者地域自立支援委員会/ラジオサンキュー	林 ともみ	福祉（障害者福祉）、マスコミ
4	大橋運輸株式会社	橋本 美香	ダイバーシティ、LGBTQ
5	多文化ソーシャルワーカー	神田 すみれ	多文化共生、外国人の社会参画
6	朝日インテック株式会社	梅村 佳範	地域経済、地域産業
7	名古屋大学情報学部 准教授	浦田 真由	地域DX、DX推進、オープンデータ推進
8	株式会社PoliPoli	伊藤 和真	GovTech（政治・行政×テクノロジー）
9	東海旅客鉄道株式会社	吉澤 克哉	関係人口創出
10	瀬戸くらし研究所/株式会社きんつき	野々垣 賢人	地域デザイン
11	土街人プロジェクト/株式会社双寿園	石川 圭一	ローカルコミュニティ、地域課題・魅力の見える化
12	愛知産業大学通信教育部造形学部 准教授	堀部 篤樹	建築計画、住民参加型まちづくり
13	名古屋学院大学現代社会学部 准教授	水谷 香織	社会的合意形成、参加協働、社会基盤計画

○第1回瀬戸市基本構想審議会（令和7年9月22日開催）意見交換要旨

意見交換テーマ：2040年を見据えたまちづくりについて

1. 人口減少・労働者不足への対応策

①現状認識について

- ・人口減少と労働者不足は最重要課題である。市役所も人材不足が顕在化しており、**副業や働き方改革の導入が必要**なのでは。【鷲見委員】
- ・**少子高齢化により、社会保障・介護の担い手不足も深刻**である。【林委員】
- ・採用活動においては、勤務地により応募数の差が大きい。**地域の魅力発信は、外部から選ばれるまちになるためには不可欠**である。【梅村委員】

②対応策・先進事例について

- ・女性活躍・外国人採用・LGBTQ・障害者雇用に注力している。「仕事を人に合わせるのではなく、人に仕事を合わせる」発想を重視しており、女性だけでなく全社員が働きやすく、短時間勤務でもキャリアが継続できる仕組みづくりが今後求められる。【橋本委員】
- ・正規雇用だけでなく、フリーランスやパート複数掛け持ちなど、多様な働き方を選ぶ人が増加している。**社会全体で柔軟な働き方が広がっており、制度や地域の理解が追いつく必要がある**。【神田委員】

2. デジタル活用と関係人口創出

①デジタル技術による地域課題解決

- ・自治体DXと地域社会DXを区別し、**地域課題の解決にデジタルを活用する視点が重要**。他市では高校生と連携し、商店街の課題をデータ分析する探究学習を実施している。【浦田委員】
- ・これからのまちづくりでは、**経営視点でデジタル活用や市民共創、国との政策連携を強化し、戦略的な産業を創出することが重要**。【伊藤委員】

②関係人口・共創人口の創出

- ・「conomichi（コノミチ）」事業で27地域・4,000人以上の関わりを創出していき。関係人口は、ゆるい関わりから継続的参加まで幅広く、**地域が望む関わり方を明確に示すことが重要**。【吉澤委員】
- ・未広商店街に「瀬戸くらし研究所」を開設し、飲食や教室など低コストで始められる場を提供している。成功事例を空き家活用に繋げる循環を目指す。【野々垣委員】

3. 地域資源活用と産業振興

①瀬戸らしさの発信

- ・瀬戸は自然環境やものづくり文化、災害に強いまちなみ等の魅力は多いが、まだ広く認知されていない。**内向きの魅力を再発見し、外部に発信することでまちの力を発揮できるのでは**。【野々垣委員】
- ・市民意識調査の「愛着はあるが誇りを感じない」という結果を踏まえ、分析やヒアリングを通じて、誇りを育む取組を検討していきたい。【浦田委員】

②陶磁器産業の課題と可能性

- ・出荷額・事業者数ともに減少しているが、依然として地域を象徴する存在。他産業との融合により、瀬戸市の陶磁器産業の付加価値が向上する可能性もあるのでは。【伊藤委員】

③企業・団体と地域の連携事例

- ・地域情報誌の発行や女子サッカーチーム拠点の移転等を通じ、地域と企業をつなぐ活動を実施。【梅村委員】
- ・ローカルコミュニティ「土街人プロジェクト」をとおして、瀬戸の土を活かした活動や地元企業の支援のほか、市役所や国際芸術祭あいちとの連携イベントを実施。【石川委員】

4. 教育連携と人材育成（地域と教育の連携強化）

①コミュニティ・スクールの活用

- ・地域に根ざした知識を伝える教育には、地域の専門家等に関わってもらうことが有効。あわせて、地域の核となる人材育成を行い、**教育とまちづくりを連動させ愛着と誇りの醸成につなげていきたい**。【堀部委員】
- ・コミュニティ・スクールにより地域の人から直接学ぶ機会が増え、子どもたちに貴重な体験を提供できる。**教育と地域産業・暮らしの結びつきが、愛着や誇りを育む鍵になるのでは**。【神田委員】

②子どもの頃からの地域体験

- ・「瀬戸を盛り上げたい」「まちを誇れる場所にしたい」と思っている中学生もいる。**子どもたちの意見を聞き、地域の未来を共に描く場が大切**。【林委員】
- ・**子どもの頃から地域に触れる経験が、将来的に「戻ってきたい」と思う動機になるのでは**。【神田委員】

## 5. 長期的視点での持続可能性（財政運営と戦略）

- ・総合計画では、**リスクマネジメントや100年先を見据えた視点、情報戦略が重要**になってくる。将来人口については、今後50年で半減、100年では20分の1になっているという推計もある。【水谷委員】
- ・自治体経営において、**財政維持・発展の視点は不可欠**。2040年、さらに100年先を見据え、財政運営や歳入確保・強化策、新たな歳入戦略の議論が必要である。【吉澤委員】
- ・人口減少による働き手不足は長期的に続くが、「余白が生まれる」「新しい可能性が広がる」と前向きに捉え、**人口減少社会を前提とした資源の活用・地域戦略に関する議論が重要**。【水谷委員】

## 6. 石川会長総括

- ・人口減少に伴う供給力低下は課題である一方で、女性や障害者など多様な層の活躍の機会の創出が期待され、社会や企業、自治体の柔軟な対応が重要になってくる。
- ・行政だけでなく、民間や地域と協力しながら瀬戸の未来を一緒に築いていく必要がある。

# ○第2回瀬戸市基本構想審議会（令和7年12月15日開催）意見交換要旨

## 論点1 第1回審議会でのキーセンテンスの深掘り

### 1. 瀬戸らしいダイバーシティを実現する

#### ①現状認識と課題

- ・**外国人人口比率は全国平均を上回り、国籍構成も多様化が進んでいる**。この状況に対応するため、教育分野での支援員配置適正化や初期指導教室の充実、労働分野での留学生の雇用・定着支援や技能実習生の地域担い手としての位置づけ、高齢者福祉分野での将来の介護・看取り問題への備えが急務である。【神田委員】
- ・やきもの産業では、従来から主婦が隙間時間に絵付けを行うなど、ダイバーシティに近い働き方が実践されてきた歴史がある。【石川委員】

#### ②解決策と理想像

- ・多文化共生の実現には、外国人住民のみに適応を求めるのではなく、**地域全体で多様性と人権を尊重し、偏見や差別を生まない環境づくりが重要**である。【神田委員】
- ・深刻な人手不足に対応するためダイバーシティ経営に取り組み、**多様な人材の活躍が発信力のある企業価値になる**。このような企業が市内に増えることで、地域全体の活性化が期待される。【橋本委員】
- ・**「どんな環境や背景にあっても、各々がやりたいことを諦めずにやれる社会」**が理想像。そのためには障害児保護者のキャリア継続や、障害者の就労環境の整備が必要である。【林委員】
- ・**優秀な外国人に日本を選んでもらうことが重要**であり、地域住民や企業向けの外国人理解促進や、よりフランクなコミュニケーション環境の構築が必要なのでは。【鷺見委員、野々垣委員】

### 2. 市民の瀬戸市に対する誇りを育む

#### ①瀬戸市の価値の再認識

- ・「なぜ瀬戸市を選ぶか」という問いが重要。**瀬戸市がプライドを感じさせる要素として、①存在感のある起業家・実業家を輩出した市としてのプライド、②歴史的にやきもの産業を発達させてきた市としての誇り、③自然豊かなまちとしての価値の3つの視点がある**と考える。【伊藤委員】
- ・シビックプライドは、単なる地元愛ではなく「自分たちでまちを変えていける」という当事者意識・自負心を含む概念である。行政が打ち出していきなり醸成されるものではなく、**市民一人ひとりの声によりまちが変わり、自分の声が反映されるという感覚の実感が重要**なのでは。【野々垣委員】

#### ②市内外への魅力発信

- ・シビックプライドをくすぐるものは住んでからは重要だが、住む前の人や市外の人に対していかに訴求することも真剣に考える必要がある。【梅村委員】
- ・実際に瀬戸のまちを歩いて、**やきものまちとして外から若者やクリエイターを引き寄せる強みがあること**を実感した。こうした**地域の魅力を子どもたちにも知ってもらうことが重要**である。【堀部委員】
- ・瀬戸市の魅力的なものが地元の人に十分理解されていないと感じており、**市民に対して瀬戸市の「今」を知ってもらうことが重要**だと考える。【橋本委員】

## 3. 関係人口・共創人口を増やす

#### ①官民連携の新たな展開

- ・各自治体で人口減少・労働者不足が大きな課題となり、官民連携への関心が高まっている。また、**大都市圏で活躍する人の「故郷に錦を飾る」意欲を活用し**、このような人材を増やすことが関係人口・定住人口増加の原動力になるのでは。【鷺見委員】
- ・最近のトレンドとして**「行政×大企業×地元企業 or スタートアップ」といった多者連携が増加**しており、企業のビジネスチャンスと行政のシティプロモーションの両方に良い取組となっている。【鷺見委員】

#### ②価値創造型の関係人口

- ・限られた関係人口の奪い合いからの脱却が必要であり、これまでの「地域を訪れる人の消費量」ではなく**「訪れた人がどれだけ地域の人と関わり、価値創造や生産活動をしていくか」**を目指すべき。【吉澤委員】
- ・**「コアな共創人口にツクリテになってもらう」という点で**、瀬戸市は活かしやすい地域資源がある。行政はコアになるプロジェクトを立ち上げ、プレイヤーに関わってもらう仕組みを作ることが重要。【吉澤委員】
- ・飛騨市のような特徴的で奇抜な取組（ヒダスケ!）も、アピールに有効なのでは。【浦田委員】

## 論点2 将来のまちづくりに活かしたい瀬戸市の付加価値・ポテンシャル

#### ①やきもの産業を核とした付加価値創出

- ・「人口・産業を増やす」「来た人を離脱させない」という視点が重要であり、**やきもの産業を核としたクリエイティブ人材の存在を強みにできる**のでは。また、瀬戸市ならではの独自性で窯業の付加価値を高めたり、事業承継ができたりすると、それも大きな強みになるのでは。【伊藤委員】
- ・後継者・担い手不足解消のため、稼げるようにすることが必要であるが、その過程で単価の低さが課題になる。分業・外注により地域でお金が循環する構造ができれば、瀬戸焼の価値向上が見込めると考える。【石川委員】

#### ②ストーリー性と体験価値

- ・長野県佐久市の、酒造りのストーリー込みでの体験を提供する取組（KURABITO STAY）を参考に、**瀬戸市ならではのストーリーやデザインを考える**のも一つの手では。【野々垣委員】
- ・やきもの以外の資源も含め、当事者として関わることのできる物語性を付加できるとよい。【吉澤委員】

## 総括と今後の方向性

- ・人口減少は必ずしも悪いことばかりではなく、**良い意味で捉え直す議論もできると良い**。【水谷委員】
- ・本日議論した論点は全て繋がっており、瀬戸市には個々のテーマで深く語れる魅力がある。瀬戸市は古くからダイバーシティのまちであり、外国人との関わりから生まれた好事例が多く、**若い世代を中心に関係人口・共創人口の繋がりができ、「何かしよう」という機運の高まりも感じられる**。【石川会長】
- ・一方で、こうした機運が市民にあまり知られていない側面や、若い世代の頑張りに依存している現状があり、行政の下支えなしでは継続は困難な状況である。【石川会長】